

2016年(平成28年)1月17日 日曜日

# NPO・住まい安心サポート秋田

## 空き家見守り隊結成

空き家の活用を推進するNPO法人「住まい安心サポート秋田」(佐々木義文理事長は16日、空き家の情報を集めて活用策を考える「住まい安心見守り隊」を結成した。秋田市の20〜70代の男女24人がボランティアで市内を巡回し、空き家の状況把握や防犯などにも努める。



佐々木理事長(右)から会員証を受け取る隊員

### 市民目線で利活用推進

同NPOは昨年3月、IT関連会社社長や司法書士ら市内の有志15人で組織。市民から空き家の相続や税金などに関する相談に無料で応じ、空き家所有者と移住希望者の橋渡しなどを行っている。見守り隊は市民の協力を得ながら、空き家に関する取り組みをさらに充実させていく。とりわけ、空き家を住民の交流の場につぎたいか模索する。メンバーは同NPOの役員13人と、活動に賛同した市民11人。



城東消防署員(右)からAEDの使い方を学ぶ隊員

みを行いたい考え。佐々木理事長(65)は「市民目線の利活用策を期待したい。東日本大震災の避難者らと空き家のマッチングにも役立てられるのではないかと語る。

この日は、同市広面の「パソコン専門店COM」内の同NPO事務所で行った。隊員15人が佐々木理事長から会員証を受け取った。そのうち、同市牛島の自営業田村成人さん(58)は「地域で空き家が増えて気になっていて、若者に空き家の良さを伝えて地域活性化につなげた」と話した。

(那須智子)

結成式後は、城東消防署による救急講習会を実施。隊員たちは巡回中に病気やけがの人を発見した場合に備え、自動体外式除細動器(AED)の使い方や心肺蘇生法を学んだ。県スポーツ科学センター職員からは、自宅で簡単にできる健康体操も教わった。

同NPOは50人を目標に隊員を募集中。問い合わせは、住まい安心サポート秋田☎018・8338・4720(火—金曜の午後1時半〜4時)